

# 落合中学校・幾寅中学校・金山中学校・下金山中学校 閉校式・惜別会 それぞれの歴史に幕降ろす



平成17年4月からの中学校一校化に伴い、町内の4中学校で閉校式が挙行され、開校以来、多くの卒業生を世に輩出し、地域とともに歩み続けてきた中学校の長い歴史に幕が降ろされました。

- ・幾寅中学校閉校式・惜別会 2月20日(180名出席)
- ・落合中学校閉校式・惜別会 2月26日(141名出席)
- ・下金山中学校閉校式・惜別会 3月6日(175名出席)
- ・金山中学校閉校式・惜別会 3月13日(269名出席)

昭和22年に公布された教育基本法により、六・三制義務教育制度の実施など戦後の教育改革として、昭和23年の高等学校、24年の大学に先立ち、22年4月から全国で小学校と



中学校が開校・発足しました。本町でも、昭和22年6月に幾寅中学校と金山中学校の開校と同時に落合分校と下金山分校が発足し、地域とともに57年の歴史を歩んできました。しかし、近年の生徒数の減少により、平成16年度をもって4つの中学校を閉校し、この4月から新たに「南富良野中学校」を開校することになりました。

それぞれの閉校式には、在校生や地域の方々をはじめ、旧教職員や大勢の同窓生の皆さんが出席され、主催者として池部町長が「今年度をもって閉校となることは寂しい限りです。今日まで中学校の発展に尽くされた皆様に感謝を申し上げます。」と式辞を述べ、校長が惜別の辞を、来賓として北海道教育庁上川教育局長と新田町議会議長があいさつを述べました。

この後、校旗が学校長から渡辺教育委員長に引き渡され、生徒らがお別れの言葉を述べ、出席者全員で校歌を斉唱して閉会しました。

また、閉校式に引き続き、それぞれの地域では、閉校事業実行委員会(協賛会)による



学校長(右)から渡辺教育委員長(左)に校旗が引き渡される

に北落合中学校として分離独立し、開校50周年を目前にしています。

校舎は、小学校の体育館を間仕切りして教室としていましたが、昭和31年から35年までに3教室を新増築。44年に児童数が減少した小学校3教室を普通教室に用途替えし、中学校普通教室を特別教室に転用していました。

生徒数のピークは昭和38年に146人を数え、学級数は36年から41年まで4学級があり、開校以来824人の卒業生を世に送り出しましたが、閉校時には2学級6人となりました。

閉校後の落合中学校の校舎は、歴史と伝統とともに併置されていた小学校に引き継がれます。

## 下金山中学校



幾寅中学校

惜別会が催され、町内のみならず道外からも大勢の同窓生や旧職員、地域の方々が出席され、思い出を語り合いながら、学び舎との別れを惜しんでいました。

## 幾寅中学校

昭和22年6月1日に幾寅小学校に本校(6学級)を併置、落合小学校に分校(2学級)を併置して開校し57年が経過しています。この間、昭和30年に落合分校が分離独立し、40年に北落合中学校(昭和30年に落合中学校北落合分校として北落合小学校に併置し34年に独立)を統合しています。

独立校舎は、昭和24年に現地に落成し、49年に今の鉄筋コンクリート造2階建てになりました。



下金山中学校

昭和22年6月に金山中学校下金山分校として、下金山小学校に併置され、1教室を増築、小学校1教室を転用して2学級55人の生徒で発足し、昭和30年4月1日に金山中学校から分離独立し小中併置校として開校しました。

生徒数のピークは、昭和37年に125人を数え、31年から58年までは3学級を維持。これまでに704人の卒業生を世に送り出しましたが、閉校時には2学級8人となりました。

に2学級55人の分校を併置しました。

校舎は、金山小学校体育館を間仕切りして普通教室2教室に充て、昭和24年に現在地に移転新築、47年に国道側校舎などが改築されました。

生徒数は、昭和29年に7学級258人(本校4学級154人、分校3学級104人)、下金山分校が分離独立後の昭和36年から40年までは6学級に達し、39年には209人を数えました。開校以来、1,602人の卒業生を輩出しましたが、閉校時には2学級6人となりました。

閉校後の校舎は、学校としての役割を終えませんが、地域の方々が新たな活用方法を模索しています。



金山中学校

昭和22年6月1日、金山小学校に本校が併置され2学級53人で開校し、下金山小学校

## 金山中学校



落合中学校

昭和22年6月に幾寅中学校落合分校として、落合小学校に併置され、2学級62人の生徒で発足しました。

その後、昭和30年4月1日に幾寅中学校から分離独立(小中併置校として開校)し、北落合分校を併置(34年4月